

北海道雪氷桜プロジェクト実行委が 北海道マラソンランナーを花で応援

8月27日、第30回北海道マラソンが開催され約2万人のアスリート、市民ランナーが猛暑の中を疾走した。

給水ボランティアや交通整理の人たちも、朝早くから熱中症対策をとりながらスタンバイ。沿道では趣向を凝らした応援やプラスバンド演奏、雪

玉の提供などランナーを元気づけるおもてなしが繰り広げられた。

東京オリンピックのレガシーとなったコースを走る本大会だが、市民応援のオリンピックレガシーが6ヶ地点の平岸街道の「花応援」だ。

東京オリンピックではコロナ対策により沿道応

援は自粛が要請されたが、沿道マンションのベランダや私有地敷地から花を振って応援し、子どもも可愛い声援にオリンピックが手を振って応える微笑ましい交流もあった。

東京オリンピック以降2回目となる今年の大会では、当別町の花卉農家からひまわり300本の

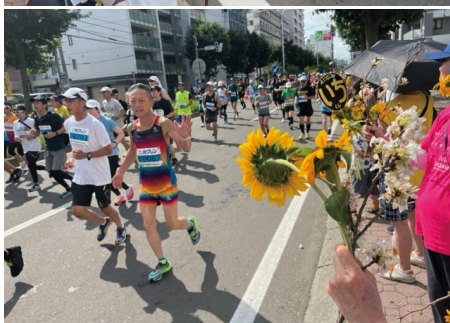
提供を受け、沼田町からは春先に雪に埋めた蓄の桜をこの日のために開花させ、北海道雪氷桜として300本が届けられた。

オリンピックイヤーに北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会が松前町や北海道神宮をはじめ各地に桜の提供を依頼した縁で沼田町との交流が続けられている。

朝から蒸し暑い沿道では、ボランティアが立ち寄る市民に桜とひまわりを手渡しし、パ

ラ走者やランナーが通過するまで声を枯らして声援。笑顔で手を振る市民ランナーからは「キレイ」「ありがとう」の声がかけられていた。

北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会と平岸町内会有志は「これからも平岸街道の花応援を広げていきたい」と来年の参加を呼びかけている。



▲地域の住民らが平岸街道でランナーを「花」応援。



▲ランナーに好評だった沼田町の雪で作った雪玉を提供する特設ブース